

社大黨縣聯書記長 三浦 愛 二

滿洲事變以來特に非常時が叫ばれて來た。廣田外相就任當時非常時と言ふ言葉は用ひたくない、非常時は解消せりと言はれたが、軍部に在りては非常時は今からだと言つて居る。見方に依つて違ふ、吾々の非常時は國民全體の生活が行詰つて居る事だ、農民は米を安く賣り高く買つて居る有様で現在の米穀統制法は害ありて益なく米價を吊上げる事であり農民大衆の爲ではない。政治、經濟の組織に一大缺陷あるを知る事が出来る。全國を通じ農民の疲弊を見る時年々多くなるのは借金だけだ、今後如何にすべきかを考へねばならぬ。東北の農民は草の根、木の實を喰つて居るを新聞紙に見る時、吾々は敢然として組織ある組合の力を以て地主に小作料の減免を要求し小作法の獲得に向つて邁進

し、一箇年の食糧保證に於ても尙一層目的の貫徹に盡されたい。

福岡縣會議員 花 山 清

己を知る者は己である。昭和六年より實施されて居る農山漁村更生委員會の一員に加つて居るか當時の農相後藤氏が更生状況視察に見へた時此の農村の疲弊するには小作人の生活の安定が必要である。先づ小作權の確立に對して御決意有るやと質問したのであるが、農林大臣は時間もないからと早々に引上げて仕舞つた。其の衝にある大臣にこの決意さへあれば出来ない事はないのである。農村救済の聲は大いかに膝詰めになると一向出来ないのが現状である。本年の早稲で一番酷いのは京高郡の收穫皆無の八百町歩である。糸島郡に於ては四百町、縣下農民の被害は千五百萬圓の多